

スクラム+勝シンポジウム2021

帯広市民大学講座

SDGsの実現に寄与する食料システム の構築へ向けて

令和3年11月2日(火) 13:15~15:30

Zoomを用いたオンライン開催

參加費
無料

開会挨拶

道總研十勝農業試驗場 場長 中本 洋

スクラム十勝 構成 6 機関の発表

13:25~15:25

持続可能な肉用牛生産を支援する技術開発

糟谷 広高 (道総研 畜産試験場 中小家畜グループ 主査(技術支援))

肉用牛における飼料利用性等の改善に向けた取り組み

浅田 正嗣 (家畜改良センター 十勝牧場 業務第一課 課長補佐)

未利用資源による反芻家畜用飼料への応用とメタン抑制

西田 武弘 (帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門 教授)

農業による温室効果气体の排出とその緩和～畑作地帯がSDGsの実現に果たす役割～

石倉 究（道総研十勝農業試験場 生産技術グループ 研究職員）

寒地気象を生かす十勝型SDGs農業の実現

下田 星晃 (農研機構 北海道農業研究センター スマート畑作グループ 上級研究員)

豆腐製造工程から排出される低価値副産物の付加価値化～おから味噌の製造法～

四富 紀之 (とかち財団 ものづくり支援部 食品加工技術センター グループ研究主査)

總括質疑・意見交換

閉会挨拶

公益財団法人とかち財団 理事長 長澤 秀行

主催：スクラム十勝

（国立大学法人帯広畜産大学、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター芽室研究拠点、地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場、地方独立行政法人北海道立総合研究機構十勝農業試験場、公益財団法人とかち財団、独立行政法人家畜改良センター十勝牧場）

共催：帯広市教育委員会、フードバーとかち推進協議会

後援：「知の集積と活用の場 産学官連携協議会（農林水産省）

問い合わせ・連絡先

農業試驗場 研究部長 富田謙一

〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地
電話番号 連絡研究崩落農業研究部長 田中誠

TEL : 0155-62-9802、FAX:0155-62-0680、E-mail: tomita-kenichi@hro.or.jp

スクラム十勝シンポジウム2021・帯広市民大学講座 SDGsの実現に寄与する食料システムの構築へ向けて

スクラム十勝を構成する6つの機関は、フードバレーとかち推進協議会の構成機関として「食」と「農林水産業」を柱とした産業振興に取り組んでいます。

近年、我が国の食料・農林水産業は、生産者の減少・高齢化の進行などの生産基盤の脆弱化、気候変動による大規模災害の増加と収量・品質の低下など、営農環境の変化により持続可能性の課題に直面しています。一方、地球環境要素のうち、窒素・リンの循環、土地利用変化、気候変動などは危機的な状況であり、環境負荷の軽減をはかり豊かな地球環境を維持するためにSDGsモデルの達成が求められています。

そこで、今回のシンポジウムでは「SDGsの実現に寄与する食料システムの構築へ向けて」をテーマとして、安定的な食料供給の継続と地球環境維持等への貢献を両立するため、スクラム十勝の構成機関において実施している生産・加工に関わる技術開発の取り組みを紹介します。

【開催方法】Zoomを用いたオンライン開催 **【参加費】**無料

【申込方法】 参加をご希望の方は、下記申込書にご記入の上FAXで、または同内容をメールにてお申し込みください。スクリーンに投影する等で1台のパソコンを複数名で視聴する場合もあると思いますので、必ず希望するアクセス数を記載してください。

FAX : 0155-62-0680 **メール : tomita-kenichi@hro.or.jp**

【URLの通知】 受付後、当日使用するZoom URLをご連絡します。

【締切】 令和3年10月20日（水）

【定員】 100アクセス（上限に達し次第、締切とさせていただきます）

スクラム十勝シンポジウム2021 参加申込書

団体・機関・企業等の名称			
連絡先	住所		
	電話	FAX	
	メール（代表者）		
出席者	所属	役職	氏名
希望アクセス数	アクセス		

ご記入いただいた個人情報は、本シンポジウムの運営事務以外には使用いたしません。